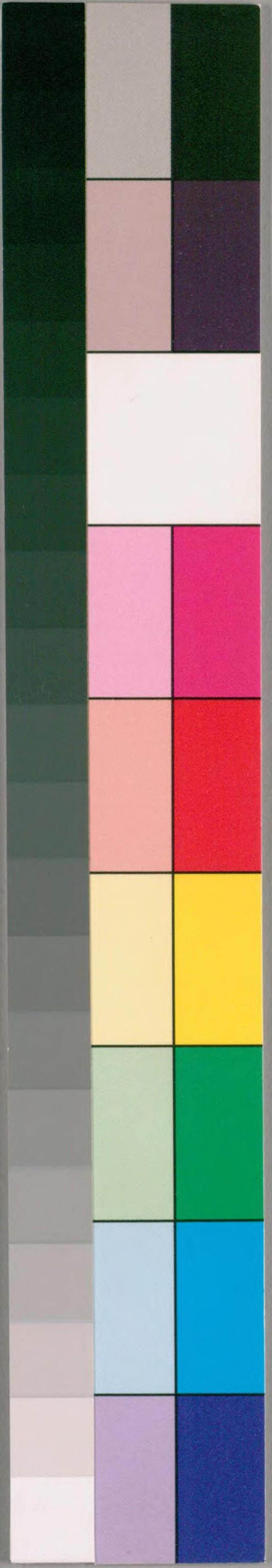


858
65

反致
入



国立国会図書館 タイトル『親族和合往来』 請求記号 858-65

ガラス使用

頭書繪抄

親族和合往来

十返舎一九著

完一本

錦耕堂訂本

此頃書様錦耕堂乃雲ふに任せ初集
 此頃書様の為に後集と唱れ青巻紙の本
 彼とあく是と形を再をき事との編
 持に寄くる子僕之石才を以て長事
 教るはあつて唯是文字を以てせん
 若くは誤わらば後人乃加筆を希ふに已

858-65

毎正月用大餅形如鏡面

者備君父且每親

族縁者知音贈之

結嘉祝之義是為

恒例相互為令忘久

因也向此時吟詠

大伴黒主之歌云云

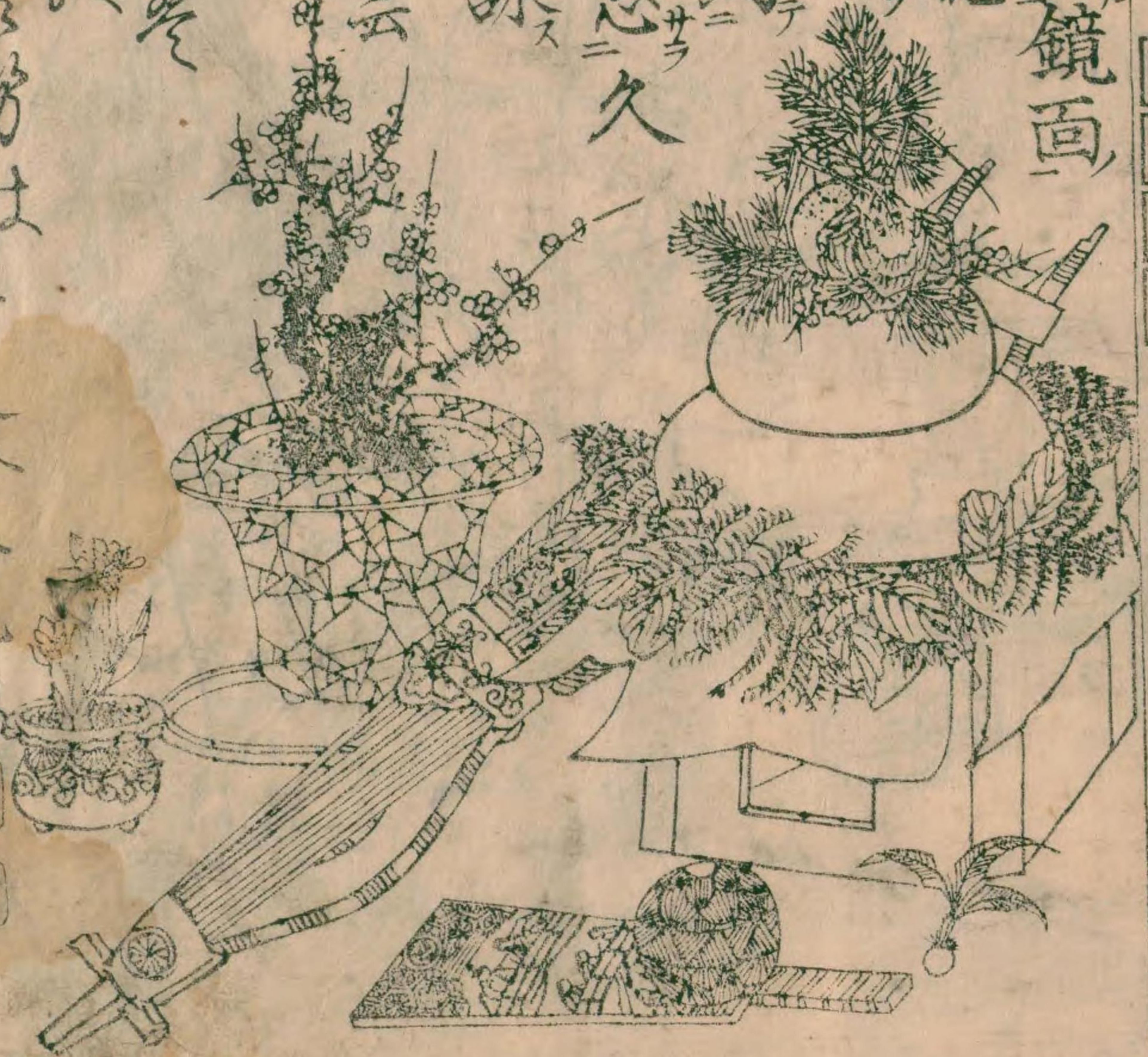
のふれわかみ乃

山吹とよよとれ冬

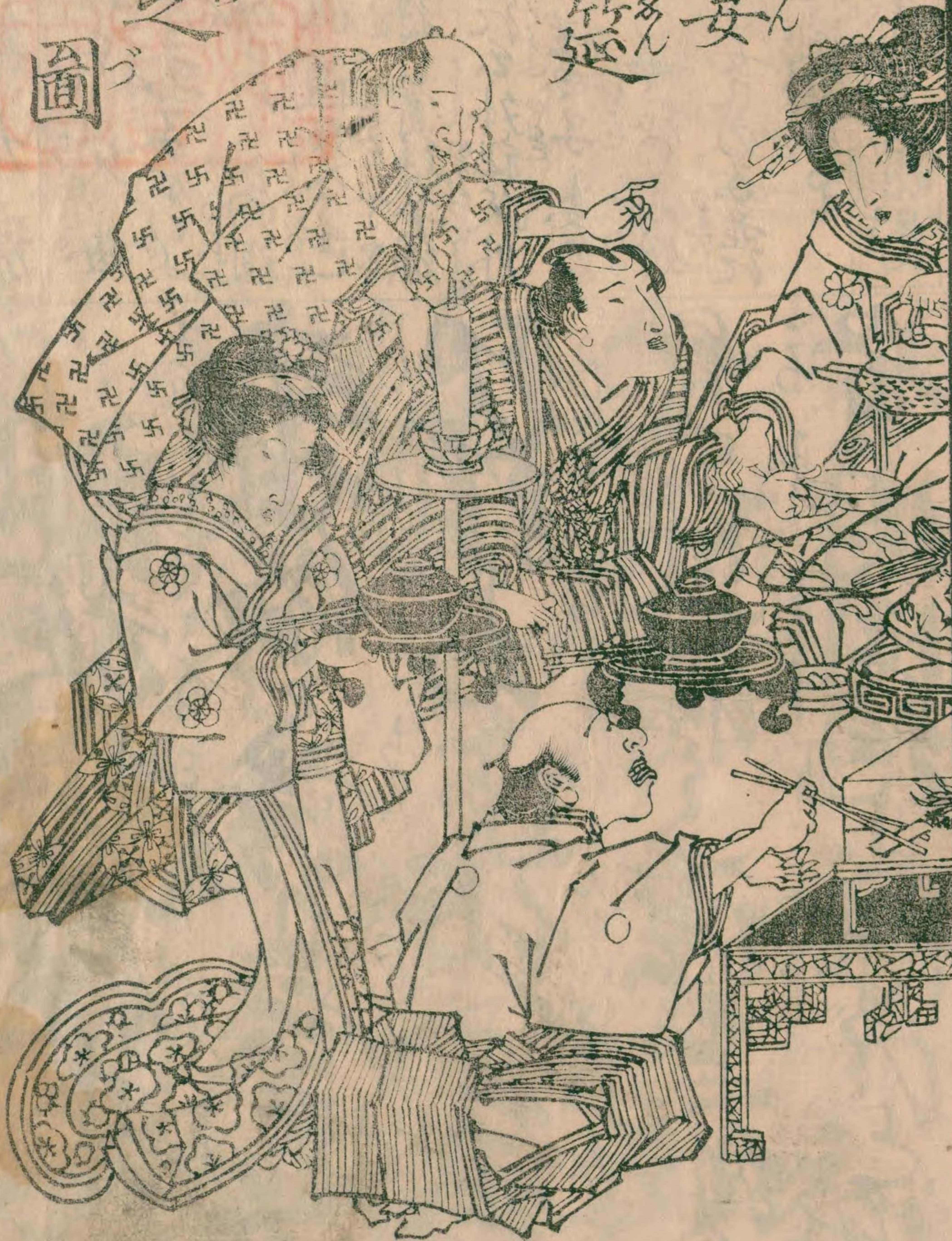
かみくそふゆゆ

君りあやせは

十返舎一九誌



宴の延 之の 圖

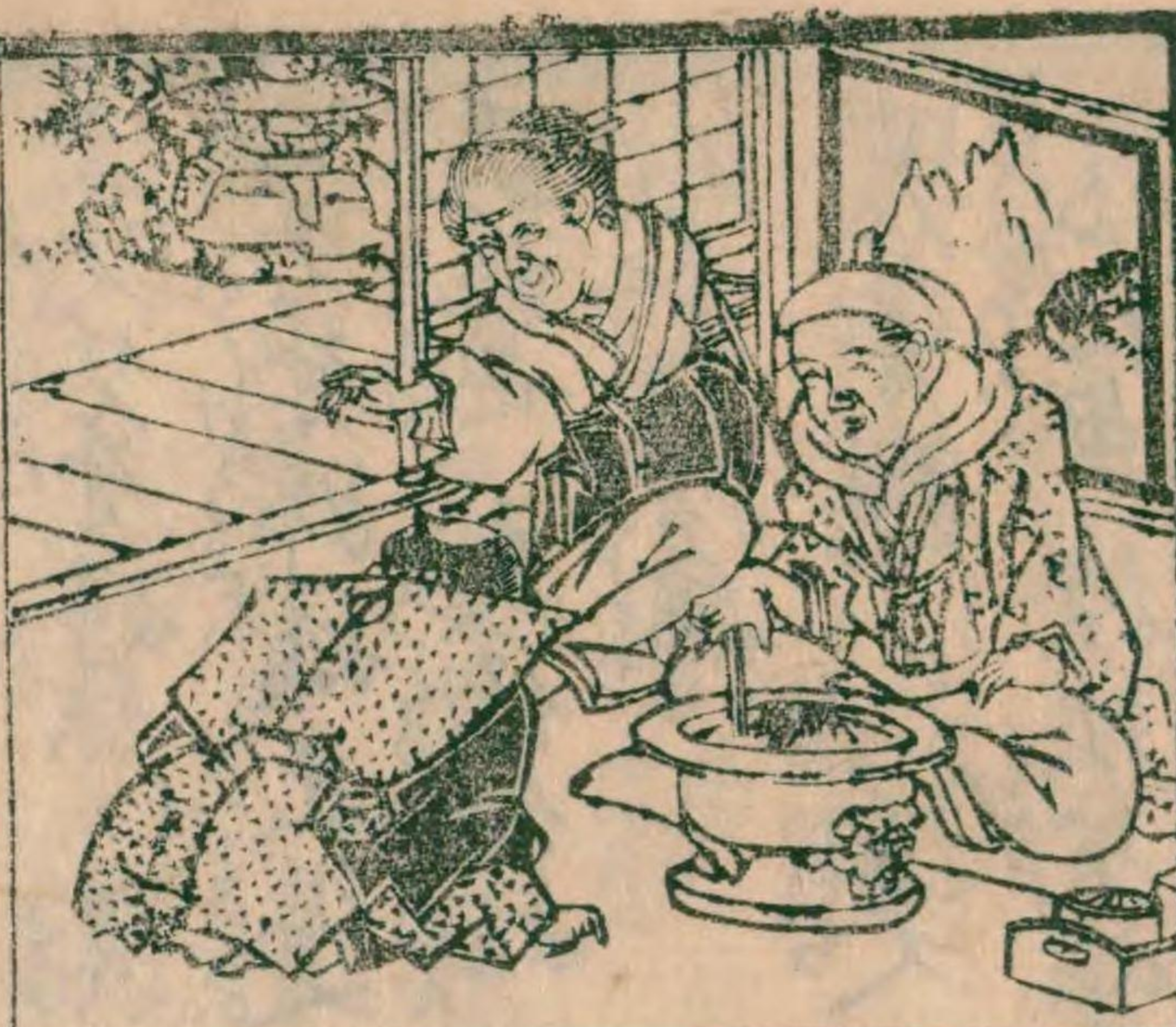


親族和合



六親九族

六親 父 母 妻 子 孫 兄弟 姊妹
九族 高祖 曾祖 祖父 祖母 父 母 妻 子 孫 兄弟 姊妹
父 妻の母 姑の子女
母の子女の子女
おれ同族
五等之親屬



一等親 父 母
養父 養母 子
二等親 祖父 祖母
嫡母 繼母 伯父 叔父 姑 姪 姉 妹

親族和合往来

夫世俗之類云々遠近

親類を全出候云々

宗祧一時之懸念

骨肉同胞之難

其縁者若何

之縁者若何

縁者を守

不虞之患

至て其是

兄弟姉妹 父母
妻 妾 甥
孫 子孫

三等親 曾祖父
伯祖母 伯父
叔母 叔父 妻 甥

後父兄弟姉妹 異
父兄弟姉妹 妻 甥
妻 伯祖母 妻 伯父

四等親 高祖父
後祖母 後祖父 姑

後父兄弟姉妹 異
兄弟姉妹 外祖父

外祖母 舅 母
姨 母 兄弟姉妹の孫
後父兄弟姉妹 外甥

外祖母 孫 孫
五等親 妻 妾
父母 姑 子孫 孫

舅 姨 子孫 外孫 孫
是又 甥 孫の
以上みぎの親族也

昔高下深淺を定むる者

望に仍る今定奪を為

深淺を老年に我父

母と云ふを定奪有りて終

慈に云ふ深淺を我母の及

後考妣と云ふ父母也

後父を我母と云ふ後父

後母と云ふ後妻也凡

後親と云ふ親族也



長翁細翁と稱

老人を翁と云はれ
老の稱なり人十五
以下孩童と云二十と
弱と云 弱なり 三十と
壯と云 壯なり 四十と

長翁の 五十と廿八と云
弱の翁の 四十と老と
艾の翁の 四十と老と
云 若くは 若くは 老人の力
の衰 七十と老ととのみ
ひびくは 八十と老と
云 若くは 若くは 若くは
九十と老ととのみ
皆の 百年の期
文あり 願と云 願と云 願と云
願と云 願と云 願と云
親名一ノ入るなり

親合 四

上は曾祖父父母下は
兄弟姉妹を内親と
言ふは親屬といふ
親屬といふは
方々遠く親屬と稱せ
と縁者と云或は外戚

次祖父祖母と云
父母と云母と云父母を
外祖父外祖母と云曾
祖父母と云則祖父と云
母と云世と云世と云

小兒を童との六未
冠せざる之半羊角
る記を童と云ふに
多未るはとも考ふと
り中冠せざるに他
く冠せし十歳より幼
とのみ初ハ少カ之ハ
小なる初の名あり初
稚と六種ハ晩く種
て後に熟する未之
凡人一呼一吸を息
と云ふ其音も初め

こゝにハ息女といふは
かみと息女との入
生ハたる疾毒の
りハ血を借る赤
子といふ又息との
ハ息女といふは
あつたかかゝる
息女といふは
抱の初を息女
息女といふは抱
息女といふは

和合 五

言祖父母祖父母
父母係是母之先
祖之伯父之兄父
之弟之叔父之妹
父母之仲父之母之

兄弟を男を母といふ父
の姉妹の叔母の甥を爾
稚自は身之を甥を
説文を我を伯父と謂者
母を之甥といふ伯女子



續日本紀云光
仁天皇宮每五年
勅之曰十月十
臘生れ方日あり今
より此辰あるを
嘉祝すべしとこれ
より其日肉け乃
百五に晴雲を物
け日と名つけて天
第といふ事なり
今に渡生目次程
事なりと云ふ

老人之の老
吾は傳の老人の
教なりといふもの
風信通す云陸路に
宿多の老人あり年
九十にして老を
一一夜交接して老
人死したる様は
吾物成の子の老
我父老人あり上
唯てび交接様
せしむる事なり

なれは姪と云孫と其
姪の子離孫と物と子
子離孫女と云徒兒
才と兄と子と身と子其
息國士と云孫父と

子と兄と子と身と子其
才と兄と子と身と子其
三遺身と云姪は
婿と父母と妻と母
子と相互の煙國と云





合人其妻淫没して
 密室の種あるは
 らるる父の胤受わ
 ずして財をもとに
 追ふさんとはは
 決せびりて妻を
 とまりてその地

男権一我はまゝあり
 老人のまゝ教あり
 こまによりなまの
 をれとて一とくま
 りと今一人同年
 りとてみりしを
 まあせ減る一人
 小田六郎のれども
 人の手終りこれ
 よりて合人そ老
 のまゝなりしを
 まれしとて人

爾雅の婚姻と云
 婿と云は禮記注
 昏と云は妻を
 婿娶て婚姻と云
 男姑と云は父を

夫と云は母と云は
 貴と云は姑と云は
 女と云は父と云は
 男と云は母と云は



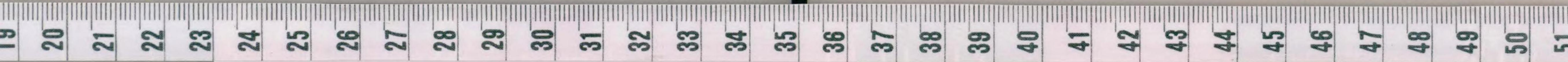
地元の地帯感
 せりといふこと記せり
 これらの地帯に老
 人の多し教うといひ
 傳へられども偶八十路
 の老人のまじりたるに
 目付生熟あやむ
 毎二十をり其
 壯麗是は川橋
 程取らる煙火
 一薬
 海にさうらぶ



倚人異相の
 倚人六行痛
 石具ちる紙片痛
 月の車此痛はして
 凡世にち体も具

兄公と云ふ女と云ふ婿
 は娘と云ふ和名と云ふ
 字を用ふる非也と云ふ
 女の婿と云ふ婿と云ふ
 人婿と云ふ人婿と云ふ

相謂て是と相謂同
 云婿と云妻と云女
 已不嫁と云婿と云婿
 兄弟と云妻と云女
 下妻と云女と云女



考あ一歩を笑ふ
きりのこ何は是
まか生れ付わるひ
怪我道て侍と
うくる之敷深体よ
李孫と行父八虎之
衛の孫良ま八踏之
公子手八倭うる皆
同財に肩よめられ
しり我朝そ六武田
伝玄の家居山縣
三節三房ハ免唐之

山本幼助ハ行國之
福徳正則の家居
月舟波ハ跡あり小
関在負六跡あり七
尾車人も免唐之
こ軍うの士これ代
氏名をた人々あり
支体且書一しこれ
島人の初るさるん
又異相とて類村の
石具ある者をあふ
のわり情せんばあ

其親也叔父夫婦と
目本氏ハ侍特徳者侍
特冊香法陽始る遺合
赤あま姉と成神其
交合さる不其求を如次

其時結結形及有尾
後猛傳の神母結るを
学を道て以結るを法
陽和谷と道園の子孫長
今其と必然を其書を



九尺文王の長八丈
 史記云頂羽也
 有眸子あり勾踐
 有八の囀あり孔
 子六丈九尺六寸腰
 三漏あり文王六尺
 乳あり禹の毛八九
 尺九寸湯王の長八
 尺九寸湯王の長八
 九尺文王の長八丈
 史記云頂羽也
 有眸子あり勾踐
 有八の囀あり孔
 子六丈九尺六寸腰



此の首の上は中四
 寸ありた名を在と
 してこれより大なる
 徳ありぬれども
 益神天をまはせぬ
 時八寸の肉よりく
 わづらひく韜のごく

懐と妻と生ませて致し人頼
 とさき事勿論之世に事
 夫を権と奪事必壯難の
 後すること且後妻頼
 氏に後まの事かまの事

と妻といふは是は母生子
 の心は必は得て事
 兄弟姉妹其分あり
 と云母事父より後事
 兄弟といふ事地は事

輻を参用と云ふ
帝の御成を参用と
いふは正天皇八初め
生れし時御齒の形
骨のごくあるお世に
の石と湯屋別と云
廣寧天皇六胎七
月して生れまう
白髪さうゆこれを
白髪天皇と申仁
徳天皇ハ長九尺日
本成る六毛一丈三
寸

聖賢の聖王あり
けむに及ぶもの者
左傳より云ふ
面皮奇疾釋
人の面及び鼻に
物平生の積物又
一切の疵瘡を
黒子多く鼻に生
ずるは奇疾也
漢の言程は後
七十二の病あり
わらわら病あり

昔は伊呂稱と訓
伊呂稱止と訓と諸
令は後の法書載る
するは伊呂稱用
流傳る公先書
其のこり
伊呂稱用捨る事
其のこり
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書

其のこり
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書
伊呂稱用捨る事
流傳る公先書



生事ハハシク群クモ
 知事ハハシク集族
 方に石灰ニ支葉の
 灰を用ク計ニ淋
 弊ク膏ト脱底
 腐利破クニ此紙
 粘ルニ至ルニ
 脱底ニ至ルニ
 大小山豆乃ニ
 脱底言ク能ク一様
 粘實のトクヒ
 して母脱わりて



生事ハハシク群クモ
 知事ハハシク集族
 方に石灰ニ支葉の
 灰を用ク計ニ淋
 弊ク膏ト脱底
 腐利破クニ此紙
 粘ルニ至ルニ
 脱底ニ至ルニ
 大小山豆乃ニ
 脱底言ク能ク一様
 粘實のトクヒ
 して母脱わりて

母實ニ父母後生武
 後長家父能天伯家
 服室成父身婦婦
 前父遠遠と朝と家
 配當母母者母母異

姓共ニ養父母定武後
 忘る者ニ養父母
 姉妹も相立た建後家
 但実方ニ諸親類共



胎に似くかくこれ
肉判の程に之を
子と生せしむるに
多とす一
痛く皮肉推せり
浮骨に生じて居
かゞ波して居る
針すくは針管より
血出て止これれ
銀面少く居る
くて起知年を
の海に居る年

若くは仕置の人
業成りて之を
愈え物居の元
痛風は白濁の二種
白濁は六面
身頭は肉
髪下痛
万病同春に
痛著と生
先痛に存
そまを能わ
おの幕と

和合

家或道也相亦父之妻
必張也也其妻居
中妻之准也母也
忌之同也嫡子也法也男
或也妻と相亦相也

何生也相也嫡子也法也男
其相也母也相也
也相也産也相也
血荒也人相也
相也也也也也



ひつてはせし抄白
 黒の麻風たに治れ
 中白の麻風
 麻風は毒瘡に似く
 毒瘡は治れぬ
 つたかき
 瘡痕倍々よみ減
 茶花瘡の如き
 くのくさるよみ減
 その瘡を治すこと
 わらふは瘡瘡膏
 若くすは内淫に

我と後漢の強件
 常もいまで漢を
 西より魏より來
 るものなり
 人々は漢を
 凡人の教養を
 種々の人々を
 唯六の如く
 一小時に
 まはあせ
 当れの如く
 至るべきに

五雜俎
 五雜俎の所
 五雜俎の友
 五雜俎の教
 五雜俎の行
 五雜俎の相
 五雜俎の事

和合 信義の
 子孫永く繁昌
 仍る此書如件

江戸 十返舎一九編

全 晋朱家玉菴書

文政七年甲申春開板

馬喰町二丁目

茶錦繪問屋 山白屋藤兵衛板



858
65



国立国会図書館 タイトル『親族和合往来』 請求記号 858-65

ガラス使用